

1967年生まれ。4才よりピアノを始める。東京芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒。

大学在学中にG-CLEFを結成し、1989年、アルバム『Pell-Mell』(SONY Record)でCDデビュー

卓抜した音楽性・演奏力をベースにフュージョン・インストゥルメンタルのワールドを開し、高い評価を得る。

90年、アルバム『五右衛門』で日本レコード大賞アルバム企画賞を受賞。

7度に渡る全国ホールツアーや、インストゥルメンタル・バンドとして初のNHK「紅白歌合戦」出場を果たすなど、多彩な実績を残す。

94年のG-CLEF解散後も、その幅広い音色とジャンル不問の卓越したセンスは、数々のアーティストのステージサポートやプロデュースワークで発揮される。

(葉加瀬太郎、中島美嘉、松田聖子、渡辺美里、倉木麻衣、森口博子、大友康平、河口恭吾、藤澤ノリマサ、林部智史、NEWS、Kis-My-Ft2、姿月あさと・・・etc)

2001年から本格的にソロ活動をスタートし、現在までに12枚のアルバムをリリース。

映像音楽では、NHK連続テレビ小説『ファイト』、日本テレビドラマ『ブルドクター』、映画「あいときぼうのまち」他、

数多くの音楽を手掛け、その他、日本テレビ系列「スポーツMAX」、テレビ朝日系列「ANNニュース」、「ワイド!スクランブル」「おかずのクッキング」などでもテーマ曲を提供している。

2019年、デビュー30周年を迎え最新アルバム「Natural」をキングレコードよりリリース。

9歳からギターを始める。大学時代より各種イベントに出演。ボサノバとクラブミュージックを融合させたユニット『Prismatica』のギタリストとして1997年にCDデビューしベスト盤を含む7枚のアルバムをリリース。アントニオ・カルロス・ジョビン、トニーニョ・オルタ、ジョアン・ボスコ、など主にブラジルのアーティストから作曲、編曲、奏法の影響を受けブラジル音楽を軸に演奏活動を展開。ギター以外にカバキーニョ、チャランゴ、ウクレレ、フラットマンドリンなども演奏。ブラジル音楽をこよなく愛するも、その活動はブラジル音楽の範囲にとどまらず、これまでに中森明菜、岩崎宏美、辛島美登里、姿月あさと、遊佐未森、石丸幹二、香寿たつき、葉加瀬太郎、Jazztronik、coba、Le Velvets、瀬木貴将、NAOTO、ウェイウェイウー、Yae、中孝介、城南海（順不同）など様々なアーティストのライブサポートやレコーディングに参加。最新作はギター独奏によるフルアルバム"Twenty Years/越田太郎丸"(2018年6月リリース) 越田太郎丸（こしだたろま）は本名。